第６講　演習問題（漢文）

第４問

次の【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】は、いずれも有名な故事成語の出典となった漢文である。これを読んで、後の問い（問1〜5）に答えよ。なお、返り点・送り仮名を省いたところがある。

【文章Ⅰ】『韓非子（かんぴし）』

宋人ニ有リ二耕スレ田ヲ者一。田中ニ有リレ株。兎（うさぎ）走リテ触レレ株ニ、⑴折リテレ頸（くび）ヲ而死ス。因リテ釈（す）テテ二其ノ耒（すき）ヲ（注1）一而守リレ株ヲ、冀（こひねが）フ二復（ま）タ得一レムト兎ヲ。（A）兎不可復得、而身為宋国笑。（B）今欲以先王之政、治当世之民、皆守株之類也。

【文章Ⅱ】『呂氏春秋（りょししゅんじゅう）』

楚人ニ有リ二渉（わた）ルレ江ヲ（注2）者一。其ノ剣自リ二舟中一墜（お）ツ二於水ニ一。

メモ欄

遽刻其舟曰、是吾剣之所従墜也。舟止。従其所契者、入水求之。舟已行矣、而剣不行。C求剣若此、不亦惑乎。以(2)故法為其国与此同。時已徙矣、而法不徙。以此為治、豈不難哉。

（注）1　耒――鋤。
2　江――揚子江。

メモ欄

問１ 二重傍線部(1)「折」・(2)「故」の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［1］・［2］。

(1)「折」［1］

① 折衝
② 折半
③ 挫折
④ 骨折
⑤ 夭折

(2)「故」［2］

① 物故
② 故事
③ 故障
④ 事故
⑤ 故意

問２ 傍線部**Ａ**「兎 不 可 復 得、而 身 為 宋 国 笑」の解釈として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **3** 。

① 兎は二度と手に入らず、その人は宋の国の人の笑いものになった
② 兎を手に入れることはできたため、宋の国の人は笑わなかった
③ 兎が手に入ることはなかったと、宋の国の人に笑って説明した
④ 兎が手に入ると宋の国の人はみなその真似をして、他国から笑われた
⑤ 兎がそんな方法で手に入るものかと、宋の国の人は笑って信じなかった

問３ 傍線部Ｂ「今欲以先王之政、治当世之民、皆守株之類也」の返り点・送り仮名の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **4** 。

① 今欲スルニ以テ二先王之政ヲ一、治ムルハ下当世之民ヲ上、皆守ルレ株ヲ之類也
今欲するに先王の政（まつりごと）を以て、当世の民を治むるは、皆株を守るの類なり

② 今欲スル下以テ先王之政トシ、治メテ二当世ヲ一之クハレ民トトモニ、皆守ルノレ株ヲレ之レ類ヲ上也
今以て先王の政とし、当世を治めて民とともに之くは、皆之れ株を守るの類を欲するなり

③ 今欲スルハ下以テ二先王之政ヲ一、治メント中当世之民ヲ上、皆守ルレ株ヲ之類也
今先王の政を以て、当世の民を治めんと欲するは、皆株を守るの類なり

④ 今欲シ二以テ先王之政ヲ一、治メテ当ニ下クハ世之民トス上、皆守レル株之類也
今以て先王の政を欲し、治めて当に世の民とすべくは、皆守れる株の類なり

⑤ 今欲スル下以テ二先王之政ヲ一、治メザラント中当世之民ヲ上、皆守ルニレ株ヲ之レ類フ也
今先王の政を以て、当世の民を治めざらんと欲する、皆株を守るに之れ類（たぐ）ふなり

問４ 傍線部Ｃ「求 剣 若 此、不 亦 惑 乎」の書き下し文とその解釈との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。
解答番号は 5 。

① 剣を求めて此くも若きは、亦た惑はざるや
これほど若い者が剣を求めても、また間違わずにいられようか

② 求むる剣は此くも若し、亦た惑はんや
探していた剣がこれほど未熟だと、間違ったりしないだろうか

③ 此くの若く剣を求む、亦た惑はざるべし
このように剣を探すなら、どうして間違うだろうか

④ 剣を求むること此くの若きは、亦た惑ひならずや
こんな方法で剣を探すのは、なんと間違ったことではないか

⑤ 此くの若き剣、亦た惑はずに求めんや
このような剣を、再び間違えずに探せるだろうか

問5 次に掲げるのは、授業の中で**【文章Ⅰ】**と**【文章Ⅱ】**について話し合った生徒の会話である。これを読んで、後の(i)～(iii)の問いに答えよ。

生徒A **【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】**は故事成語の出典になっている話だね。
生徒B ほかにも**【文章Ⅰ】**は「逆鱗（げきりん）」や「矛盾」の出典として有名だよ。
生徒C **【文章Ⅰ】**はひたすら株を守り続けた宋の国の人の行為が書かれているね。
生徒A 一方、**【文章Ⅱ】**は「 X 」という楚の国の人の行為が中心になっている。
生徒B **【文章Ⅰ】**は一度得た幸運を再び期待するという虫のいい話だね。一方の**【文章Ⅱ】**は幸運とは関係ない失敗話だけど……。
生徒C どちらも故事成語としては「 Y 」という似たような意味で用いられているのが面白いな。
生徒A **【文章Ⅰ】**は「今欲以先王之政、治当世之民、皆守株之類也」という言葉で締められているよ。
生徒B **【文章Ⅱ】**の締めくくりは「時已徙矣、而法不徙。以此為治、豈不難哉」となっている。
生徒C この文章の大意は「 Z 」というところだね。

(i) X に入る最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 6 。

① 川を舟で渡る
② 大事な剣を水に落とす
③ 舟に刻み目をつけて剣を探す
④ 舟を止めさせる
⑤ 自分で水に潜る

(ii) **Y** に入る最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **7** 。

① 発想が飛躍しすぎて誰もついてこられないこと
② 後先を考えずに危険な行動をすること
③ 成果が得られるまで非常に時間がかかること
④ 幸運を得るために無駄な努力をすること
⑤ 古いやり方にこだわって融通がきかないこと

(iii) **Z** に入る最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **8** 。

① どんなに急いでも法はすぐに変わらない。こんな状態で国を治めるのは、難しいに決まっている
② 時代は変化しているのに法はもとのままだ。こんな状態で国を治めるのは、なんと難しいことではないか
③ 時代が移り変わっても法の精神は不変だ。これをふまえて国を治めるのは、決して難しくないはずだ
④ 時代が変われば法もころころ変わる。こんな状態で国を治めるのは、難しいと言わざるをえない
⑤ 時代は変わらず安定し法も変わらない。それを保ってさえいれば、どうして国を治めるのに難しいことがあろうか

■ 演習問題

問題番号	設　問	解答番号	正　解
第４問	1	1	4
		2	2
	2	3	1
	3	4	3
	4	5	4
	5	6	3
		7	5
		8	2

■現代語訳

【文章Ⅰ】

宋の国の人に田を耕す者がいた。田に切り株があった。兎が走ってきて切り株にぶつかり、頸の骨を折って死んだ。そこで男は鋤を捨てて切り株を見守り、また兎を得ようと待ち望んだ。兎は二度と手に入らず、その人は宋の国の人の笑いものになった。今、古代聖王の政道を持ち出して、現代の民を治めようとするのは、みな切り株を見守る男の類である。

【文章Ⅱ】

楚の国の人に揚子江を渡る者がいた。その剣が舟から河の中に落ちた。あわててその舟に刻み目をつけて言うには、「ここが私の剣が落ちた所だ」と。舟が止まった。その刻み目をつけた所から、河に飛び込んでこれ〔＝剣〕を探した。舟はすでに進んでいるが、剣は進まない〔＝落ちた所のまま〕。こんな方法で剣を探すのは、なんと間違ったことではないか。昔の方法で国を治めようとするのはこれと同じだ。時代はすでに変わっているが、法律はもとのまま。こんな状態で（国を）治めるのは、なんと難しいことではないか。